うめのき幼稚園だより

令和６年１１月２９日
北区立うめのき幼稚園

けんきもりもり　えがおにこにこ　ひとみきらきら　12 月

「やってみたい」が学びの芽

園長　篠澤　恵理

本園では、今年度「北区×東京ヴェルディ体力向上事業」の推進園として、年５回のサッカー教室があり、先日３回目を実施しました。子どもたちが、相手の動きや障害物を避けながら、より多くの人の手をタッチする場面では、前回よりも格段に身のこなしが軽やかになっていると感じました。2～3 人組で手をつなぎ、東京ヴェルディのコーチに捕まらないように動く様子を見ていると、どちらの方向に逃げるか、子ども同士で自然に声を掛け合うこともありました。サッカーの動きは、相手をよく見たり、場所を把握したり、足先でボールの動きを調整したりと、数多くの動作が同時に行われていることがよく分かりました。子どもたちが、動きを習得しやすいように、「やってみたい」と思えるようなことが次々と積み重ねられていました。多様な動きも、順序立てて行うことで、子どもたちにとっても一歩先の目当てがもちやすかったようです。一番の目的は、運動することが楽しいと感じ、「やってみたい」と思って自分から取り組む気持ちを育むことです。サッカー教室が終わるやいなや、ボールを取りにいって遊び始める姿も見られました。取り組み方には、それぞれのペースがあります。サッカー以外の場面でも、体を動かすと楽しいと感じて「やってみたい」と思える遊びが増えていくことを願っています。

「やってみたいが学びの芽」については、幼保小の相互理解を推進するための参考資料として、文部科学省のホームページに示されています。そこには、「やってみたい」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成として、幼児期の遊びを通した学びと、小学校の各教科等の学習のつながりを解説しています。本園では、11 月に梅木小学校と西が丘保育園の先生方との合同研修会を実施し、この資料を共有したところです。「やってみたい」と思えることを積み重ねて意欲を育むことが、小学校以降の学習につながることを心に留めながら日々の生活を大切に過ごしてまいります。

さて、この度、稲付中学校の職場体験が終了しました。生徒たちに感想を聞くと、「子どもたちが、けんかの後に気持ちを立て直していたこと。」にふれて、「3 日間の職場体験中にも成長している。」と気付いていました。また、年長もり組が、砂場遊びで次々とアイディアを思いついては、やってみようと取り組む姿から、子どもたちの意欲が膨らんでいることにも感心していました。今年も残すところ１ヵ月。子どもたちの「やってみたい」という思いを引き出しながら、年末の大掃除など、役に立つ場面を演出できるとよいですね。寒い毎日になりますが、子どもの成長を思い起こして、心が温かくなる日々になりますように。

えがおにこにこコーナー

お祭りごっこでは、「バスに乗って祭りに行く」という想定にして、お客さんを招待しました。少し前に、じゅうじょうなかはら幼稚園の遊園地ごっこに招待された際、「都電に乗って遊園地に行く」という想定で、つり革につかまれるようになっていたことが楽しかったので、バスにもつり革を作ることを取り入れていました。

また、焼き芋パーティーでは、芋を火種に投げ入れるときに、10月に体験した「ボッチャ」の投げ方を思い出す姿もありました。これまで体験したことが、子どもたちの心の中に積み重なって、次に生かされていると感じます。幼稚園では、これからも心の栄養となる体験を重ねていかれるように計画してまいります。

今年も、保護者並びに園を支えてくださる皆様のお力添えに、心より感謝申し上げます。良い年をお迎えください。

【お祭りごっこ】

【焼き芋パーティー】

【図書館訪問】